

消 防 学 校 だ よ り

平成 31 年 2 月・3 月号



発行年月日 平成 31 年 3 月 22 日
発 行 宮 崎 県 消 防 学 校

★第 58 期初級幹部科

平成 31 年 2 月 6 日(水)～20 日(水)の間で、消防士長及び消防士長昇任予定者に対し初級幹部研修を実施しました。

指揮者として、的確な判断力、強靱な気力・体力、自己啓発を学び、住民の安心安全のため、また、所属する隊員を指揮、指導していく者として熱心に研修を受講しました。



総 代 濱砂 尚孝(西都市)

31 号室 室長 福永 忠秀(宮崎市) 佐藤 勇樹(都城市) 佐々木 啓人(西諸広域)
坂上 大輔(日南市) 阿萬 祐樹(東児湯)

32 号室 室長 甲斐 正満(延岡市) 佐藤 慎太郎(宮崎市) 徳井 直輝(日南市)
山中 大輔(西諸広域) 馬渡 翔太(東児湯)

33 号室 室長 奈須 和憲(延岡市) 末吉 晋之輔(都城市) 濱砂 尚孝(西都市)
廣澤 俊(西諸広域) 佐藤 俊裕(西臼杵広域)

35 号室 室長 大森 雄一郎(日向市) 皆森 祐一(都城市) 堀之内 聡寛(西都市)
上園 惇平(西諸広域) 町川 雄一郎(西臼杵広域)

36 号室 室長 平島 崇裕(日向市) 伊集院 智史(都城市) 鈴木 友也(串間市)
村上 広大(西諸広域) 佐藤 敏隆(西臼杵広域)

安全管理と実技

安全管理についての座学後、屋内訓練場に移動し三連はしごの取扱訓練を行いました。

この訓練の目的は、自らの安全確保はもちろん、訓練を実施する隊員への安全配慮ができることであり、訓練実施、訓練振り返りを行い、指揮者として訓練中の安全配慮について研修しました。



図上シミュレーション訓練

指揮訓練要領の座学後、図上訓練における役割分担を決め、メインコントローラー、コントローラー、実施者に別け訓練を実施しました。

この訓練の目的は、情報収集、現場指示等を的確に行うことで効果的な部隊運用、管理並びに安全管理体制をシミュレーションにて疑似体験し、現場活動に反映できることである。



自動車事故の現場指揮要領

自動車事故等の機械事故は、その対象物の諸元を知ることが作戦を練る上で必要となるため、日常的に見ない自動車下部を見ることで、器具を当てる位置の確認や、緊急時どの程度の人員で車両は持ち上がるか、また、キャビン内で火災が発生した場合の炎の延焼過程を体験しました。



消防財政の仕組み

市町村は、消防の任務を十分に果たすため消防施設を整備し、人員を確保する必要があり、財政上、必要な消防費を計上している。

消防関係者は財政に疎い面もあるが、消防行政を行う上で、財政はその基本となる重要なものであるため、財政に精通した職員を育てていく必要がある。



東児湯消防組合消防本部
総務課長 瀬川 幸一郎 司令

身体管理と怪我防止

消防職員の基礎体力という場合の体力とは、当然災害現場における防ぎよ活動を前提にしていることは言うまでもない。

災害現場において迅速、的確な行動と判断力を確保しつつ、自己の安全を保つため、体力の向上はもちろんであるが、体力を維持し、怪我をしない身体を造ることも消防のプロとして必要なことである。

身体管理と怪我防止について(株)エクセル 山田 義徳 氏に講義と指導していただきました。



山岳訓練

山岳訓練と称して、行軍、登山訓練を実施しました。

行軍時には、指揮者が地図を見て、部隊を安全に目的地に到着させる訓練を実施しました。

多数の隊員を率いる際に感じる責任感や孤独感、周辺事情に応じた安全配慮を研修しました。

学校出発(9:00)



分岐点でのルート確認

双石山塩鶴登山口到着



登山



第2展望所にて昼食



下山



帰校



火災防ぎょ指揮要領と留意点

安全管理実技、図上シミュレーションを踏まえ、火災防ぎょ指揮要領訓練を実施しました。



震災対応とリーダーシップ

熊本市消防局 通信司令課 課長代理 池松 英二司令を講師に招き、震災時の対応とリーダーシップについて御講義いただきました。

池松司令は、熊本地震発生時に通信司令課の当直責任者として勤務されており、被災した指令室の復旧や災害対応など、南海トラフ巨大地震に備え何をを行うべきか考える機会ができました。

★自衛消防隊員研修

宮崎市防災センターの協力を得て、平成 31 年 2 月 12 日(火)・13 日(水)・14 日(木)の 3 日間で、自衛消防隊員研修 1 次・2 次・3 次を実施しました。

今回は日帰りでの研修でしたが、延べ 130 人の自衛消防隊員に対して、自衛消防隊員の活動と役割、傷病者搬送、消火器の取扱い、119 番通報訓練、起震車体験、暗中避難訓練、屋内消火栓取扱訓練等の教育を行いました。

消火器取扱い



起震車体験



119 番通報訓練



屋内消火栓取扱訓練



★第 11 期予防査察科

平成 31 年 3 月 4 日(月)から同年 3 月 15 日(金)の間で、予防査察科を実施しました。

消火と防火である消防は、警防(消火)と予防(防火)の両輪をしっかりと回すことが、消防の目的を達成するのに必要なことです。

建築物の多様化や、大規模化により災害形態が変化している昨今、予防(防火)行政を適切に行うことは住民の生命、身体および財産の保護に直接的な影響をおよぼすため、学生は真剣に授業に取り組みました。

シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート屋上での集合写真



総 代 結城 昭彦(串間市)

25 号室 室 長 貫 隆彦(延岡市) 橋口 尚悟(宮崎市) 荒川 幸太(都城市)
結城 昭彦(串間市) 海江田 直人(西諸広域) 藤本 尉公(西臼杵広域)

26 号室 室 長 中田 忍(日向市) 山口 拓也(宮崎市) 村田 翔悟(延岡市)
松田 雄介(日南市) 梅原 剛毅(東児湯) 篠村 翔(西臼杵)

27 号室 室 長 渡邊 一穂(西都市) 主税 祐企(都城市) 熊本 恭詩朗(日向市)
日高 拓弥(西諸広域) 甲斐 友喜(西臼杵)

水圧シャッター取扱

文化シャッター株式会社様の協力のもと、水圧シャッターの諸元と取扱訓練を実施しました。



視察研修

3月11日（月）に、フェニックスリゾート（株）に御協力を頂きシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートを視察に行きました。

宿泊施設としては、県内最大規模の防火対象物である同施設には様々な消防用の設備が有り、大変有意義な視察研修を行えました。

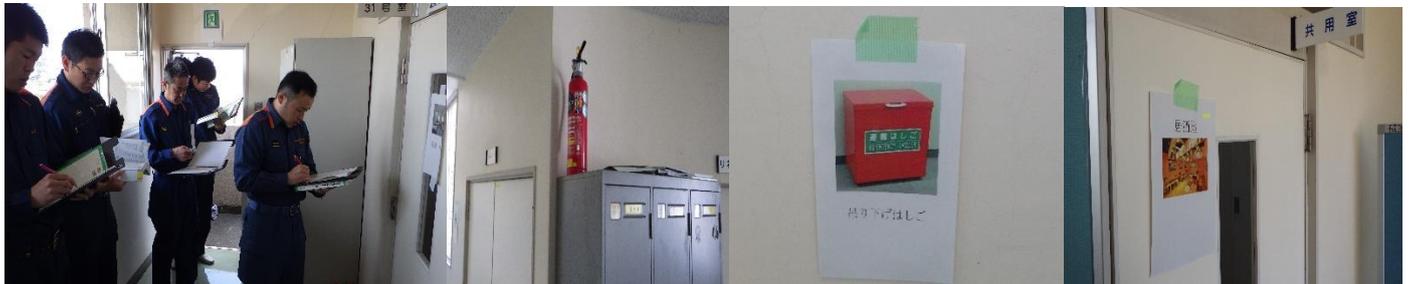


査察シミュレーション

消防学校本館、ひむか寮を査察先の防火対象物と見立て、実際に立ち入り検査を行い、指摘事項を見つけ行政指導を行う研修を実施しました。

3想定あり、各種想定対象物を各班が適切に査察の実施をしました。

査察実習



査察結果発表（準備）



査察結果発表



特別研修（違反処理）

3月13日（水）、消防大学校より 南野 浩 助教授を招聘し、違反処理について講義していただいた。

消防大学校が持つ最新の知見を講義され、過去の火災を教訓にした現在の法規制に至る流れや、違反処理に必要な知識と気概等、実習をまじえた講義をいただいた。



特別研修（違反是正研修会）

月刊誌「フェスク」（消防関連書物）に掲載された岐阜市の違反是正の取り組みについて、講義を岐阜市消防本部予防課 杉山 明 係長にわかりやすく説明していただいた。



教頭点検

毎週水曜日は、校長・教頭点検日です。



★消防団指揮幹部科（現場指揮課程）

後期の消防団指揮幹部科（現場指揮課程）を実施しました。

昨今の災害は、大規模化、特殊化しており、また、本県においては南海トラフ巨大地震の発生も危惧されている。

地域防災力の要である消防団員の教育の充実は、消防力向上のため大変重要となっている。

安全管理教育や指揮要領の座学をはじめ、エンジンカッターや、ストライカー及び電動式コンピツールの取扱等の実働訓練を実施しました。

（集合写真）



座学



消防活動の対象となる災害現場は、通常の人が入れない極めて危険作業の高い状況にあり、消防隊員は地域住民の生命、身体、財産を守り、災害による被害を最小限度にとどめる使命を有し、それゆえにその活動は、緊急性や迅速性が求められるものである。

災害現場における安全管理は、目の前の被災者救出等の任務遂行に使命感と自身の安全管理との両立、バランスが求められるものであり、常に安全への高い意識と高度な判断力を養う必要がある。



エンジンカッター取扱訓練



コンビツール取扱訓練



ストライカー及び油圧ジャッキ取扱訓練



平成という時代もあと数ヶ月で終わり、新たな時代が始まりますが、消防精神は脈々と受け継がれていきます。

よりよい宮崎県の消防を目指し、県内消防（局）本部・消防団と消防学校の両輪で新たな時代に挑みましょう。

宮崎県消防学校

担当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp